

日本語英国教会ニュースレター

第90号 2017年9-10月発行

Service of Thanksgiving for the life of Rev Nathanael Kunio Sonoda

9月13日、主に召された園田先生の追悼礼拝を準備するという大変な光栄な役割が与えられ、正直、身が縮まりながらも微力ながらも全力投球しようと思いました。ある意味でそれが先生への恩返しになることを願った次第です。

園田先生が、宗教にこだわらず、ロンドンの日本人のコミュニティの為に尽力を捧げられたお陰と感謝しながら、それぞれの信仰、信条そして思いを超えて、先生の「友人」として同じ立場に立って、共に慰め合い、そして先生のご生涯に感謝する式となりますよう祈り願いました。

9月8日の追悼礼拝にて、先生の写真と遺灰を前に、先生のご子息ケンさんとデビッドさんと奥様メグさんはじめ、ロンドンにある各派の日本語礼拝や聖書勉強会、そして英国日本人会やイーリングマムズから、さらに個人的に先生との出会いが与えられた方々と共に140名あまりの方々が集まりました。

実に皆様に喜ばれ、素晴らしい礼拝ができたのは、多くの方々の支えと協力ばかりでなく、本当に園田先生のお陰というしかありません。

やっぱり、エマオ途上でイエスに会った弟子たちの喜びを思い浮かべます。先生は見えないけれど、先生の言葉や教えが私たちの心のうちに生きている、あるいは、先生の言葉や教えによって私達が生き、そしてこんなにも生き生きとすることができるのではないか。

園田先生の偉大な生涯に引き寄せられ、先生の教えや願いを受け継いだ私たちが神様の導きを求め、み心にそった歩みができますよう共に祈り続けたいと思っています。

ジョンソン友紀

2014年5月発行のニュースレターから
上にあるものを求めながら

園田先生

イエスの生涯に関するストーリーの初めと終わりには普通考えられないことが出てきます。処女降誕と復活の話です。単なる蘇生ではない。墓が空になり、遺体が何処にも見つからない。しかも、閉ざされた部屋にも入って来れる体のイエス。どんな体で甦ったのか、私には想像もつきません。しかし幸いなことに、焦点は弟子たちのイエスとの出会いにあります。

ルカ伝によると、エマオに向かった二人の弟子は「一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった」とあります。（24：30－31）イエスの復活は信仰の目にしか見えないものなのです。

今日の日課の使徒言行録10章34－43節はペテロが異邦人のコルネリウスの家で福音を告げた時の話です。「神が清めた物を、清くないなどと言ってはならない」と3度も聞かされたペテロはコルネリウスの家に行きました。そうすることによって、彼は神が人を分け隔てないこと、キリストがすべての人の主だと言うことを経験したのです。

「人々はイエスを木にかけて殺してしまいましたが、神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。しかし、それは民全体に対してではなく、前もって神に選ばれた証人、つまり、イエスが死者の中から復活した後、ご一緒に食事をしたわたしたちに対してです」。この食事は聖餐式をさしているのでしょうか。キリストの体と血、パンとぶどう酒。イエスに出会い十字架の死と復活による罪の赦しを知ったのです。

使徒信経では「罪の赦し、体のよみがえり、永遠の命を信じます」と唱えます。死んだあとキリストのように復活す

る。でもそれは世の終わりの話です。今毎日を生きている私達にとって復活の意義は何なののでしょうか。

コロサイ書3章にはこうあります。「あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。」

キリストと共に死んで、キリストと共に甦る。これは洗礼式の経験です。パウロはローマ書6章でこう言っています。「あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい。」

ピリピ書3章でパウロは次のように言っています。「わたしは、キリストとその復活の力とを知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、何とかして死者の中からの復活に達したいのです。」「なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。」

二千年前本当に何が起こったのか。復活については分からないことが沢山あります。しかし、大切なのは今をどう生きるかです。信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめ上を見ながら目標を目指して走り続けようではありませんか（ヘブル12：2）。

◆◆◆◆◆寄せられたメッセージから◆◆◆◆◆

以下は私だけに与えられたものではなく、支援してくださる皆様に向けての感謝の言葉とっておりますので、一部ご紹介します。

**ECCJ 日本語教会 立山仰牧師から

昨日は素晴らしい追悼礼拝をありがとうございました。取りまとめることなど、色々と大変なこともあったと思います。Yuki さんのお働きのおかげで、最高の追悼礼拝に出席できました。本当にありがとうございました。

園田先生が願われていたこと、ロンドン日本人伝道の横のつながりを大切にすること。少しずつかもしれませんが、そのことを考えて、動いていこうと私自身は思わされております。今後とも、色々とよろしく願いたします。

**JCF 馬場さんから

主を賛美します！

園田先生の追悼礼拝に参加させていただき、心に沁みる、恵み豊かなひと時を先生を愛するみなさまと共に分かち合うことができましたことを心から感謝いたします。久しぶりに懐かしい方々にもお会いし、園田先生のこと、JCF の近況を色々と話す機会をいただきました。

ロンドン JCF 代表してお祈りを読み上げることで参加させていただけたことも感謝いたします。

会堂溢れるばかりの老若男女の方達に囲まれ、先生の主にある偉大なお人柄を忍ことができました。

あのような立派な礼拝をご準備されたユキさんご夫妻、教会の兄姉に感謝いたします。ご苦労様でした。

服部先生就任式の6月には言うようにして参加くださったことは今も鮮明に残っています。あれが先生をご無理させ

てしまったのではないかと心配していましたが、先生には JCF の様子が心残りだったのでしょう。。

ご苦労もありがとうございましたし、齒に衣着せぬお言葉が時には誤解を招くこともあったようですが、最後まであのようにたくさんの方達に囲まれ、私達を励まし続けられたことはまさにイエス様から来る行動だったのですね。。人はその生涯を最期に清算しなければならないものですが、主に喜ばれるご生涯を達成されたことは昨日の礼拝で証明されましたね。天のみ国に凱旋され、神様の元で憩っておられることでしょう。残る奥様とご家族の上に主の慰めと励ましをお祈りしております。

先生の御意志を受け継ぎ、ロンドン邦人宣教にこれからもみなさまと祈り、協力していきたいものです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

** ウィンブルドン仮庵フェロシップ 華さんから

すばらしい礼拝をありがとうございました。そして（私が言うのも僭越ですが）これまでの日々、先生を慕うすべての人たちをリードしてくださったこと、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。たくさんの人たちが集まり、温かい雰囲気、素晴らしい式でした。たずさわることができて光栄でした。機会を与えて下さったことに感謝します。

** ウィンブルドン仮庵フェロシップ 加奈さんから

心にジーンとくる、追悼礼拝ありがとうございました。これで先生と本当にお別れしたんだと思うと、今になって涙が止まりません。

でも、先生を通じてお知りあいになれた方も沢山いて、悲しみを分かち合えたし、新たに信仰の友達をえられた様な感じで先生に感謝しています。



主よ、世を去った主の^{しもべ}僕を み心にとめてください。彼
とすべてキリストにあつて^{いこ}憩う人々に、主の約束された^{こうみょう}光明
と^{へいあん}平安を与えてくださいますように アーメン

主よ、先生が主に召されたことで、悔いを残しておられる方、嘆き悲しむ方、心が閉ざされるような思いをされている方に 主の慈しみ深い愛と慰めをお与えください。

私たちが死の定めを嘆くことがあっても、主にある永遠の命の望みによって強め慰め、み力を注いでくださいますように

主イエス キリストによって お願いします アーメン



日本語英国教会 **St.Martin's West Acton**

10月15日（日曜日）

午後3時から 5時まで

夕の礼拝

ティータイム

場所：St. Martin's,

Hale Gardens, LONDON W3 9SQ

皆様、お誘いあわせの上いらしてください。

Commissioned Lay Minister：ジョンソン友紀

120 Carthorse Lane REDDITCH B97 6SZ

携帯 07503 893880

yukifunakawa@btinternet.com

ブログ <http://blog.goo.ne.jp/jacuk>